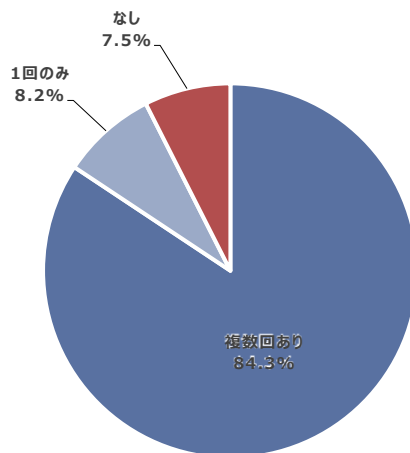

【がん哲学外来メディカルカフェ】への関わりについてお伺いします

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

1

問1 がん哲学外来メディカルカフェへの参加経験について



回答数 n=134

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

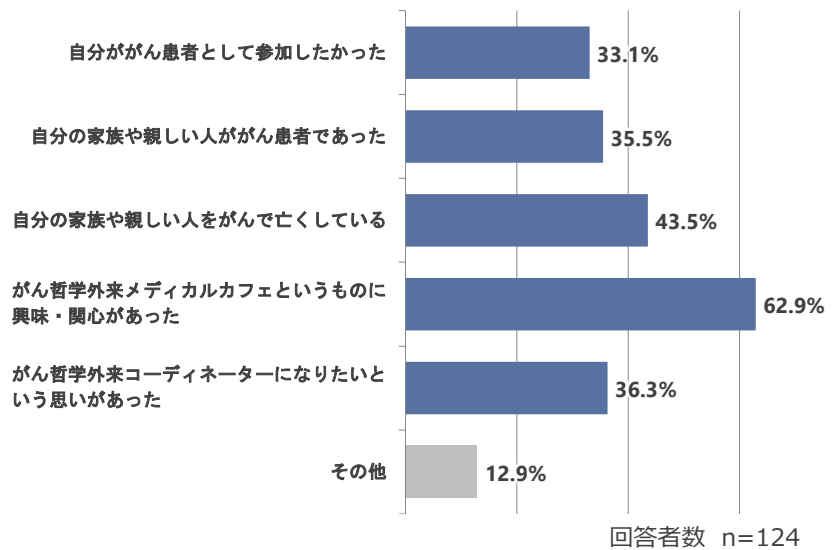
2

がん哲学外来メディカルカフェへの参加経験がある方にお伺いたします

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

3

問1-1 参加動機で当てはまるものを選択してください ※複数選択可



第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

4

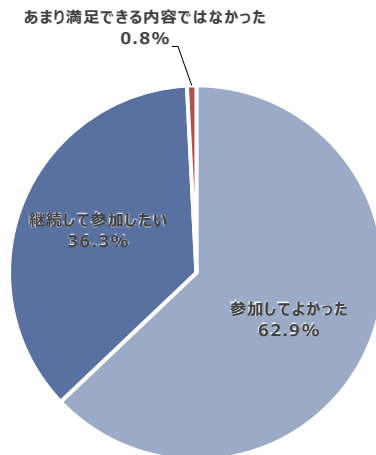
問1-1 参加動機で当てはまるものを選択してください ※複数選択可 —その他

- がん哲学外来メディカルカフェを立ち上げたかった。
- 病院勤務でたくさんの方の終末期を見てきた
- スタッフとして
- がん哲学外来カフェ（金城カフェ）を開催し担当となった。
- 樋野先生からのお誘い
- 患者会活動をして13年になります。ピアサポーターとしての気持ちも共有したかった
- たまプラーザがん哲学外来カフェを主催しております。
- 仕事でがん患者の就労支援をしている
- 白鷺メディカルカフェを運営しており他のカフェとの交流や自身の勉強の為
- コーディネーターとして
- 知人がメディカルカフェを開催していた
- 視野を広げたかった。
- 2011年の第1回コーディネーター養成講座の撮影の協力からの交流
- メディカルカフェを開催したい。
- グループグリーンケアや対面のケアを経験、担当していた為
- がんカフェを主催している。

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

5

問1-2 参加されてどう思ったか、当てはまるものを選択してください



回答数 n=124

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

6

問1-3 ご意見・ご感想をお聞かせください

- がん患者の生の声に生き方を考えさせられた
- いろいろなカフェに参加させていただき、それぞれ個性があり、とても参考になりました。違う雰囲気の良いのだと思った。
- 患者本人や患者を側で支える人も、悩みながら治療や看護をしているので、その頑張りや寄り添いたいと思う。
- とても元気ながん患者さん達にお会いできて、大変元気を貰い、勇気ができました。
- コロナの影響でZOOMを利用したり制限のある対面だったりですが、明るく、支えになっている実感がありました
- カフェを運営しています。自分のことを話せる場として大切な場です。
- カフェの前の読書会から参加させていただきました。自己紹介時に、涙が出てしまい自分でも驚いたのですが、代表はじめ皆さまが黙って待って下さいました。その時、やっと自分ががん患者であることを受容できたのだと感じました。感謝の気持ちでいっぱいです。少しずつでも、学びながら自分の体験も役立てられればと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。
- いろいろな人たちと繋がるのはすばらしい。
- がんで有る無しにかかわらず、どう生きるかについて語り合える。
- 皆さんの体験されたお話が自分の元気につながった
- 患者さんの「今」を知り、寄り添う場に感慨深いものがあります。
- 初めて参加の方がいるカフェと、他のカフェを主催している方ばかりのカフェと、様々だった。
- 色々な方の話しが聞けて、勇気を貰えた。
- 患者会と違って病気だけに焦点を合わせるのではなく、自分の人生や生き方を学ばせて頂けて嬉しかったです。
- 前向きな気持ちになりました。
- 患者が話せる場所が必要だと思う
- それぞれのカフェで趣が違っており、ある程度自由にカフェ活動していると感じました。
- 参加してほっとした気持ちになりました
- お話を聴こうと参加しましたが、結果的に私の話を聴いていただく嬉しい結果となりました。ありがとうございます。

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

7

問1-3 ご意見・ご感想をお聞かせください

- スタートしたばかりのカフェだったので、いろいろと不慣れで満足できなかった。
- 貴重なお話が聴け、患者間の情報交換の場もありいろいろな思いを話せることで、参加者の皆さんの心が軽くなっていてるように感じました。
- ピアサポート活動をしています。色々と学び返したい事があり参加させていただきます。
- コーディネーター・カフェスタッフとして参加している
- 患者の気持ちが自己の看護に繋がるヒントになったので参加してよかったと思います。
- どんな話でも話しやすい環境を提供されていると思います。
- 立場の異なる方々との対話により気付きや客観的な視点をいただいた。
- 今後も継続します参加したい
- いろいろなお立場のかたと出会うことができた
- 心の中の事を話すうちに整理され消化する事ができた
- 参加者の話しは、学びが多く、参考になる
- 心の中の不安が解消されて、よかったです。
- あたたかい優しい時間に語り合うことがよかったです
- いろいろ学ぶことができました。
- 病院では聞けない、話せない内容を皆さん互いに明るく話し合える
- 2022.1月開設、4月開設記念講演会（榎野先生）、まだ5回しか開催の経験はありませんが、毎回恵みと多くの気づきを頂いています。
- 何回か参加することによりいろいろな気づきが出てくる。回数を重ねる事は自分のため方向付けとしても良いのではないかと。
- メディカルカフェに多様性があることを知って参考になった
- ピアサポーターする側の心のあり方をもっと話したい
- 話しやすい雰囲気があった
- 同じ境遇の方、患者さんに会っている方々の話を聞いて、今後の自分の生き方の参考にしたい。
- あたたかい雰囲気や支えを実感しています

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

8

問1-3 ご意見・ご感想をお聞かせください

- 同じ境遇の方、患者さんに会っている方々の話を聞いて、今後の自分の生き方の参考にしたい。
- あたたかい雰囲気や支えを実感しています
- 交流としては良かった。ただ、初めの参加者には温度差は感じました。
- その時のテーマに添って皆で考えていくという事はいいと思います
- 直接病いに対してだけでなく、がんになったことで様々なことが変化してしまう。そこに伴って社会的、精神面、生き方におこることに対話を通して向き合える「場」だと思った。
- 色々な意見があってよかった
- 他のカフェに参加することで運営上の相談をしたり、参加者との交わりから自身の学びになる
- コロナ禍より、カフェの開催が休止されたままになっており、カフェのあり方の検討も中途半端のままで、残念です。
- 遺族ですが、安心して心を通わせる場として必要不可欠な場です
- 医療的な事への理解が自分には浅いと痛感した。
- それぞれのメディカルカフェの雰囲気があるので、相性があると感じた。
- コロナ下での参加や募集が難しい。特に感染対策が気になります。
- 話す事は話す事、話す事
- 自分自身が、がん患者ではないので、治療方法や、症状や、状態、又新しい療法など最新情報を入手したいと思う。
- 色々な方と話しが出来て良かった
- まさにマイナス×マイナス＝プラスであった
- 色々な考え方、気持ち 奥深い経験が出来た
- あるお医者さんのお話があり、外科医でありながら、代替医療の話をして、たいへん興味を持ちました。
- いつもありがとうございます🙏 樋野興夫先生からも配信頂き、励みになってます 毎回のカフェ開催のヒントや力になっています。 がん哲学外来市民学会ではお世話になりました リモートであれば助かりますが、遠方だとなかなか費用も大変です。

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

9

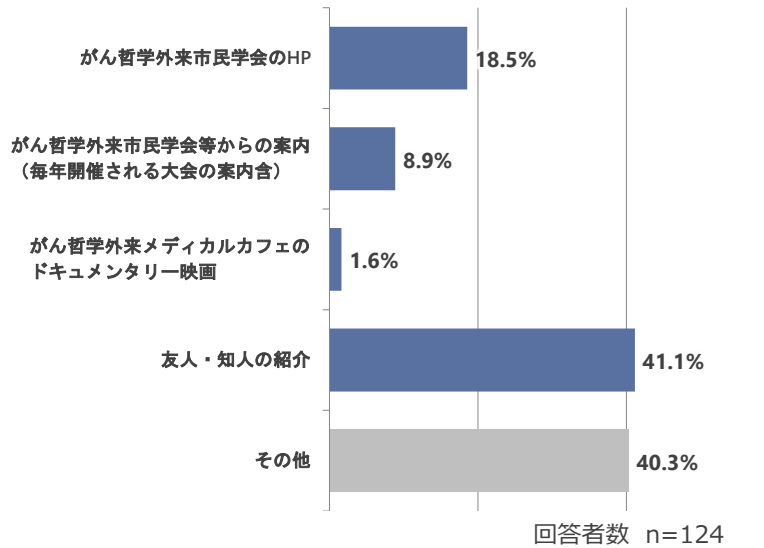
問1-3 ご意見・ご感想をお聞かせください

- カフェによっては通いたいと思う所、そうでない所がある
- 地域にこういう場所があるのはとても良いと思った。
- 自分の気持ちが軽くなる感じがした
- 地域における自分の居場所のひとつにもなる。
- コーディネーター養成講座 & 市民学会大会で学ぶ事が多かった。
- 何も言わず隣に居るといあたり前の事を知った
- 学びになる
- 現地参加 リモート参加 現地参加の方が良いですが、これからはリモートになりますね
- たまたま最初に行ったカフェが良い所だったから良かったが、カフェによって当たりハズレが激しいと感じた。(表記されていないのに、これは医療者が癒されるためのカフェだと言われた事もある。
- 情報入手ができて良かった。
- がん当事者の方が、病気であっても病人ではないというアイデンティティーを持ってその人らしく生きる姿に心を打たれました。
- 「がん」から人生を見つめ直し、死に対しても向き合う哲学は、どんな人も学ぶ意義があると感じました。
- 解決では無い解消する事で、活力や意欲につながる学場に遭遇する幸い。
- 仕事上、がんの患者さんと接することが多く、患者さんの思いを聴くことの大切さ、一緒に寄り添う心を学びたかった
- 生きること 生きる姿勢を語られる場となっている。「他では語れないことが語ることができる」(参加された方の言葉)場となっている。
- がんへの取組にいろんな思いや考えのある事が理解できた。
- がん患者さんの思いを知ることができた。

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

10

問2 がん哲学外来メディカルカフェを知った理由は何ですか？



第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

11

問2 がん哲学外来メディカルカフェを知った理由は何ですか？ —その他

- 樋野先生の講演を聴いて。
- 放送大学の授業で知った
- 樋野先生の本
- 以前学会員だったので。
- 雑誌「信徒の友」の樋野先生の記事より
- 樋野先生の講演会の案内が届いた。
- たまたま通っていた施設で開催されていたので。
- 樋野先生の働き方をテレビで知りました。
- がんで検索をして知りました。
- メディカルカフェのある病院からのお知らせ
- 樋野先生の本
- スヴェンソン主催のメディカルカフェのチラシ
- Facebook
- 樋野先生の講演を聴いて
- 樋野先生の著書
- 樋野先生の講演
- 地域の広報紙
- 教会に置いてあったチラシ
- 樋野の書籍
- 学会に参加して
- 樋野先生の著書
- 講演会を開催、聴講
- 樋野先生の出張講演会に参加して
- 故矢形先生（埼玉医科大学）から教えて頂きました
- 団体のHPに出あって知って参加した。
- 樋野先生のご講演を拝聴致しました。
- 空欄
- 樋野先生の著書
- 白鷺協会の伝道礼拝に樋野先生をおまねきして講演していただき、そこから自分の教会でもメディカルカフェを始めた
- 金沢がん哲学外来主催側のスタッフメンバーである

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

12

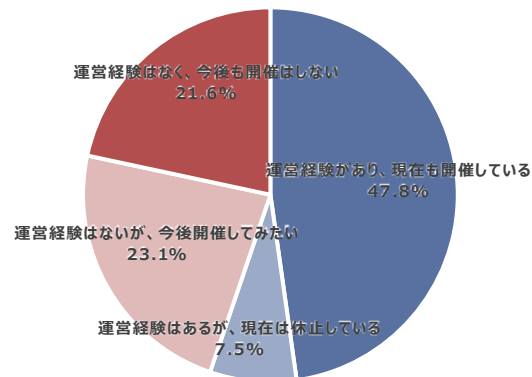
問2 がん哲学外来メディカルカフェを知った理由は何ですか？ —その他

- 樋野先生から
- 職場の中で“がん相談室”の担当になりカフェの存在を知った
- 樋野先生の御講演で。
- 樋野先生の著書
- Yahooニュースの記事
- 患者の会発行の冊子で知った
- 偶然、樋野先生の講演会に参加して知りました。
- がん哲学外来市民学会員だから
- 地域の新聞で知った。
- 地域の広報紙に案内がのっていた
- 新聞記事
- 初期立上げの時から樋野先生たちと協働してきた
- 樋野先生から
- TV 雑誌「百万人の福音」
- 病院
- 本で（信徒の友？）
- 樋野先生の著作から。
- 雑誌「信徒の友」の樋野興夫先生の記事
- 妻からの誘い
- 元上司がカフェのスタッフであった

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

13

問3 がん哲学外来メディカルカフェの運営経験について



回答数 n=124

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

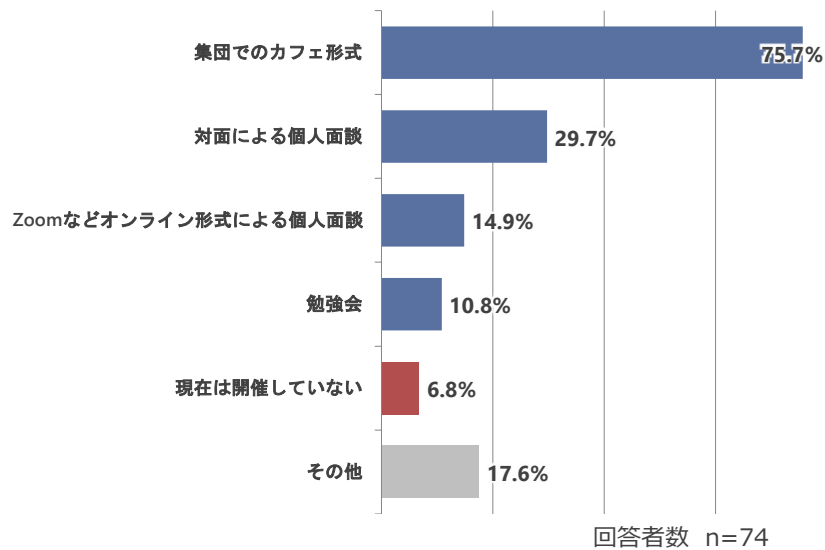
14

運営経験のある方にお伺いたします

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

15

問3-1 現在対応している開催形式を選択してください ※複数選択可



第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

16

問3-1 現在対応している開催形式を選択してください ※複数選択可 —その他

- ハイブリット開催
- Zoom(10名)と会場(5名)で同時開催
- Zoomによるオンライン形式によるグループ対話
- コロナウイルス感染情報により開催を決めてる
- 読書会「いい覚悟で生きる」を読んで語りあう
- カフェはR4.4月に立ちあげたばかりです。カフェ終了後、スタッフミーティングを必ず実施する
- Zoom開催を検討中です。
- オンラインによるカフェ
- かつては、講座や大会を開催した。今はコロナでできていない。
- 講演会・落語会
- シンポジウム
- 周年記念イベント等でZOOMも数回(制限人数なし)
- 毎回お楽しみ企画としてイベント開催、例えば落語会等

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

17

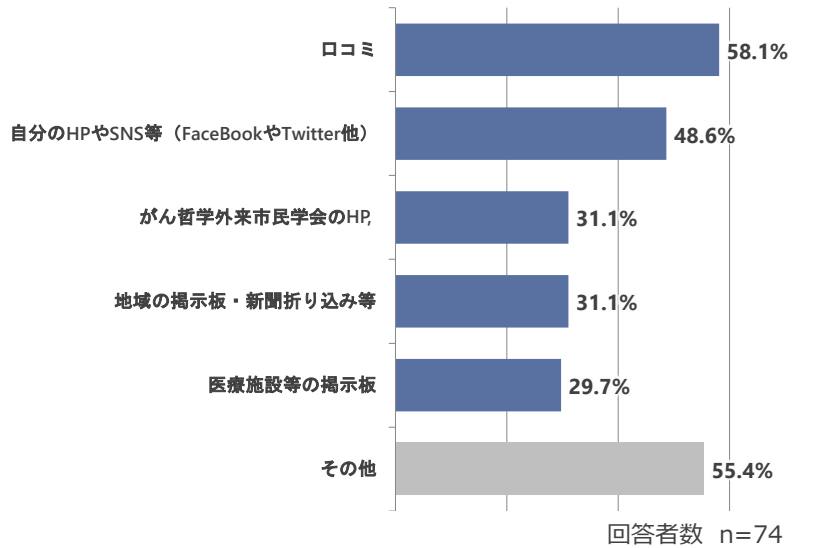
問3-1 現在対応している開催形式を選択してください ※複数選択可 —人数

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| ● 最小人数8 最大人数12 | ● 最小人数4 最大人数40 | ● 最小人数5 最大人数10 |
| ● 最小人数1 最大人数2 | ● 最小人数10 最大人数25 | ● 最小人数15 最大人数 |
| ● 最小人数 最大人数12 | ● 最小人数10 最大人数15 | ● 最小人数14 最大人数24 |
| ● 最小人数 最大人数20 | ● 最小人数10 最大人数80 | ● 最小人数7 最大人数20 |
| ● 最小人数5 最大人数20 | ● 最小人数13 最大人数20 | ● 最小人数 最大人数15 |
| ● 最小人数12 最大人数12 | ● 最小人数4 最大人数17 | ● 最小人数 最大人数9 |
| ● 最小人数50 最大人数50 | ● 最小人数10 最大人数25 | ● 最小人数2 最大人数15 |
| ● 最小人数 最大人数30 | ● 最小人数10 最大人数20 | |
| ● 最小人数10 最大人数30 | ● 最小人数6 最大人数10 | |
| ● 最小人数10 最大人数30 | ● 最小人数6 最大人数20 | |
| ● 最小人数5 最大人数20 | ● 最小人数4 最大人数16 | |
| ● 最小人数5 最大人数10 | ● 最小人数5 最大人数30 | |
| ● 最小人数5 最大人数20 | ● 最小人数2 最大人数20 | |
| ● 最小人数15 最大人数18 | ● 最小人数 最大人数10 | |
| ● 最小人数5 最大人数20 | ● 最小人数12 最大人数 | |

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

18

問3-2 告知方法を選択してください ※複数選択可



第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

19

問3-2 告知方法を選択してください ※複数選択可 —その他

- 参加しているカフェや、近隣の社協や、地域文化センター、教会、病院等にチラシを置かせてもらっている。
- 今はコロナで広く広告出来ませんが以前は新聞等に掲載
- がん哲学外来市民学会のHP
- 社団のHPにのせてもらっている
- がん哲学外来市民学会のHP
- 一般社団法人がん哲学外来のHP
- チラシ配布・ホームページ
- 市広報
- がん哲学外来市民学会のHP
- 中野区社会福祉協議会のHP
- チラシ、一般社団法人がん哲学外来HP
- 金沢がん哲学外来独自のチラシ配布 (私は担当外)
- がん哲学外来市民学会のHP
- がん哲学外来市民学会のHP
- 社団のHP カフェ独自のHP
- がん哲学外来市民学会のHP
- 毎回、参加者にチラシ配布 FaceBook 6月～他のカフェ仲間に誘われて初めばかりです。
- がん哲学外来市民学会のHP
- 保健所、ご近所のお店や病院
- 保健所にチラシを配置
- がん哲学外来市民学会のHP
- がん哲学外来市民学会のHP
- がん哲学外来市民学会のHP
- 個人的に親しい知りあいに連絡
- 一般社団がん哲学外来のイベント情報に掲載
- がん哲学外来市民学会のHP
- がん哲学外来市民学会のHP
- イベント (大会) は、タウンニュース、広報紙 (市広報) がん哲市民学会HPで告知案内
- 個人的に連絡

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

20

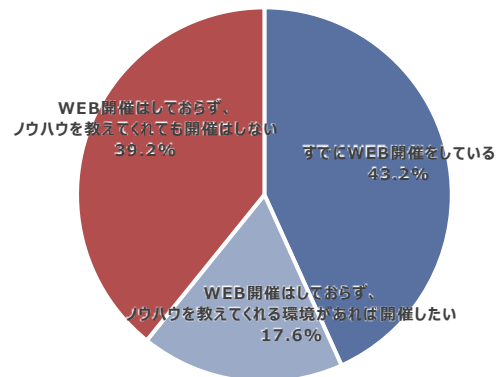
問3-2 告知方法を選択してください ※複数選択可 —その他

- がん哲学外来市民学会のHP
- チラシを配る
- 個別案内メール
- がん哲学外来市民学会のHP
- 2.は仲間+よく参加する方々とグループラインをつくっている。
- がん哲学外来市民学会のHP
- 教会のHP
- 他のカフェ開催にチラシを置いてもらう
- 会場となっている教会のHP、チラシの掲示
- がん哲学外来市民学会のHP
- 教会で開催を1度のみでした。
- 知人や市民センター等へのチラシ配布

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

21

問3-3 WEBでの開催について、当てはまるものを選択してください

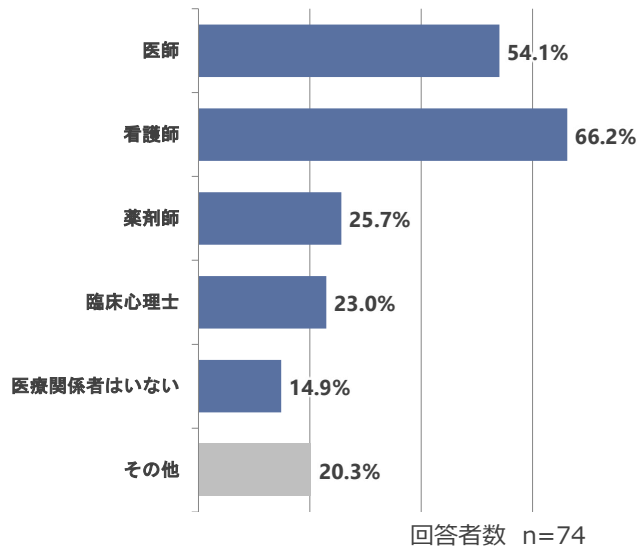


回答数 n=74

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

22

問3-4 あなたの開催しているがん哲学外来メディカルカフェにいる（いた）
医療関係者を選択してください ※複数選択可



第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

23

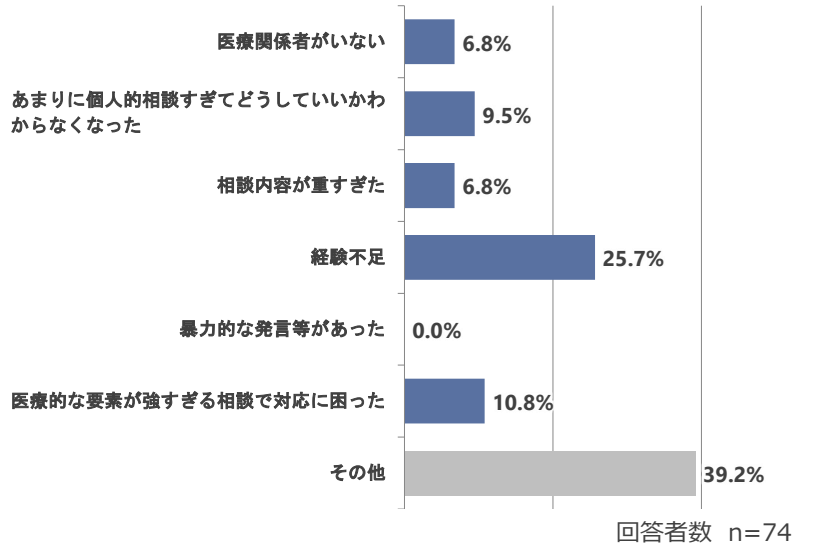
問3-2 告知方法を選択してください ※複数選択可 —その他

- 臨床検査技師
- サバイバー 学生
- ただし、看護師としての参加ではありませんでした。
- MSW、臨床宗教師
- 鍼灸師(がん患者さん対応)
- 栄養士、MSW、リハビリ
- 音楽療法士
- 保健士
- 当事者、その他
- カウンセラー
- 福祉従事者
- 牧師
- 理学療法士、乳がんコーディネーター、ピンクリボンアドバイザー
- 各種相談にかかわる人
- 栄養士・産業カウンセラーなど

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

24

問3-5 これまでがん哲学外来メディカルカフェを開催して対応が難しいと思った事例や話題で当てはまるものを選択してください ※複数選択可



第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

25

問3-5 これまでがん哲学外来メディカルカフェを開催して対応が難しいと思った事例や話題で当てはまるものを選択してください ※複数選択可 —その他

- 同じテーブルで、深刻な話を聞いてもらいたい人と、カフェの時はがんのことは忘れて楽しく前向きな話をしたいと言う人が、一緒にいて、明るく楽しいカフェを望んでいる人が、一時来なくなってしまった。
- 発言内容を否定する人がいた
- マスク、コロナワクチン反対の方の参加
- 信仰を伝えたい方や営利目的の方の対応
- 依頼していない出し物の希望を断る時、ビジネスにつながるかどうか迷う時
- たくさん話したい方がいる時の調整
- 密を避けられる会場探し
- 2時間ずーとマシンガントークで止めることができなかった。本人は心の重荷を下されスッキリされ、スタッフは疲れた。
- がん患者さんとお話を希望されて来られたのに、カフェには医療関係者しかおらず、ご希望に添えなかったことがあった。
- がん以外に別の疾患も有する参加者へのアプローチ。
- 地域で相談できる人もいるがスタッフで話し合っている
- 個人的な発言や相談が長くなってしまふとき
- 署名集めの場と思って来られる方があった。
- ケースバイケースなので、がん種も異なりむずかしい
- 会場の確保
- 色々な参加者がいるために専門的などころほぐたいて話すのが、わかってもらえたかなと不安に思った事あった
- 宗教的な内容が強すぎる内容
- 患者、家族、遺族の方々、またまったく健康な方々が集まるカフェにですので、それぞれの方々への対応が難しいです。
- 精神的に病んでいらっしゃる方の場合の対応
- まだ始めたばかりで特に困った問題は生じていない。
- 開催するまでの周知方法。特にがん患者さんへの周知
- あまり困った事がない。困った時はがん相談支援部門との連携
- まだ困る事はない
- ひとりで話してつづけてしまう参加者がいたときの対応

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

26

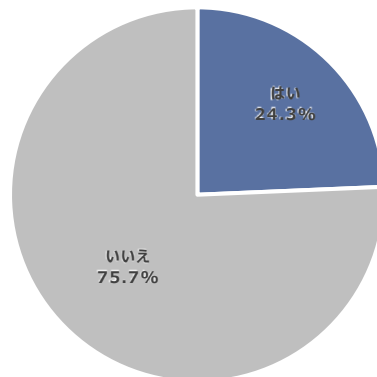
問3-5 これまでがん哲学外来メディカルカフェを開催して対応が難しいと思った事例や話題で当てはまるものを選択してください ※複数選択可 ーその他

- まだ1回しか開催していないのでわからない
- 主宰（自分）ががん当事者ではない。勤務中など、闘病中の方からの連絡に最優先で答えられない時がある。
- 今のところはないが 個々の気持ちのあり様によって グループ訳の必要が出るかもしれない その対応のあり方
- たった一度のみでしたので、継続できたら良いと思っています。
- 集客が安定しない！

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

27

問3-6 対応が難しい事例があったときに、がん哲学外来市民学会が手伝いや支援を求めたいと思ったことはありましたか？

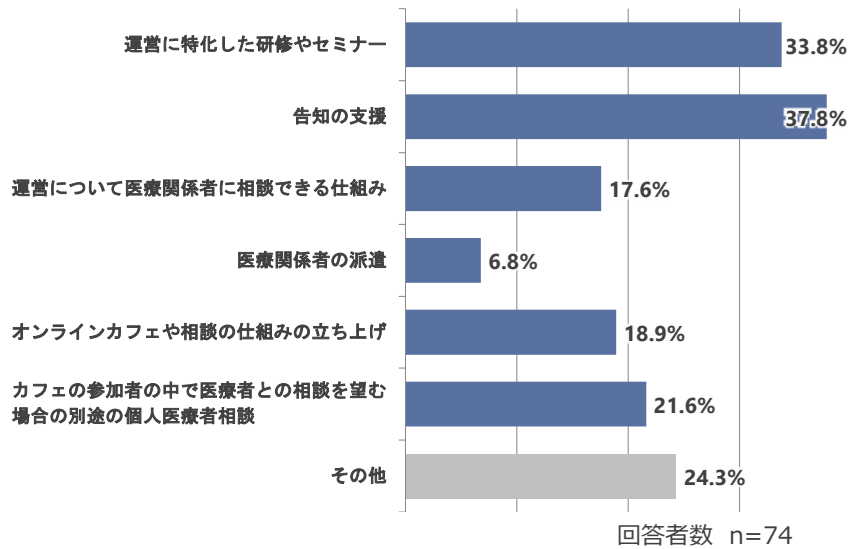


回答数 n=74

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

28

問3-7 がん哲学外来メディカルカフェへの支援について、どのような支援があれば、受けたいと思いますか？ ※複数選択可



第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

29

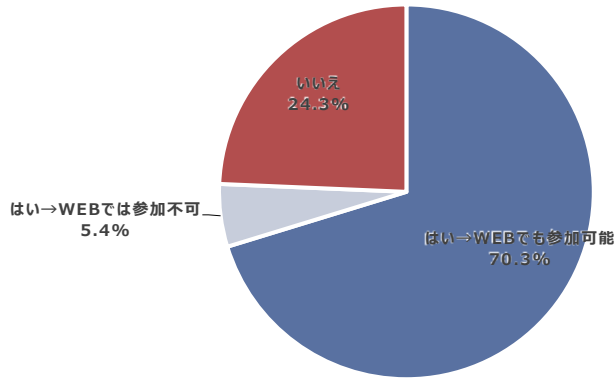
問3-7 がん哲学外来メディカルカフェへの支援について、どのような支援があれば、受けたいと思いますか？ ※複数選択可 —その他

- カフェの近隣にお住まいのコーディネーターの方がいたら、スタッフとして協力してもらえないか、紹介してほしい。
- ナシ
- 他のカフェとの交流
- ご自身ががん患者さんで、医療、看護、介護などに精通された方が支援下されば…
- 今のところ大丈夫です。
- 運営について相談できる仕組み
- 樋野興夫先生との関わり方について
- アンケートの内容が医療者がとっている印象が強く感じられる。
- 特にない
- 支援は必要とはしていません
- 特にありません
- がん哲学外来に関する講師（参加者向け）派遣
- ファシリテーターの研修会
- 特になし
- 特になし
- 今のところ、特にありません
- 現状でよいと思う
- 特にない
- オンラインカフェは当分の間、実施しない。

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

30

問3-8 対応が難しい事例や話題についての事例検討会 (事例を匿名にして共有するなど)があれば参加を希望されますか？



回答数 n=74

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

31

問4 その他ご自由にご意見をご記載ください

- 運営側のスキルを学びたい
- 病院で開催している相談先を紹介する事にしている。
- 継続的に参加して下さる方がいるので、今後もよりよい形での開催を続けていきたい。
- コロナ禍ではありますが、開催にこぎつけられるよう、樋野先生初め皆様と連携して準備していきたいと思っています。
- 安定した活動が持続できることを望んでいます
- 学んでいること、いつか職場で開催したい旨を代表に伝えて理解を得ている。
- 主になつての運営は出来ないが、お手伝いはしたいと思っています。
- カフェの継続に不安がある
- オンラインカフェに複数参加されていて、深刻な悩みの中にある方の継続フォローやカフェ同士の共通理解など、どうしたらよいか知りたい。オンラインでの安心安全な場所の設定や注意点、工夫などを知りたい。
- 特にありません。
- 近くのがんカフェにはできる限り参加したいと思っている。
- 様々な講演を拝聴出来、感謝しております。参加するたびに心が軽くなるのを感じております。
- サロン活動の基本となる事などを学びたいと思います。
- 少人数のカフェなので、今のところはスタッフと相談しながら運営できている。
- スタッフの勉強会が定期的にあると良いと思います
- 主催は、大変そうだなと感じています。
- ますますこうした支援活動の必要性は感じています
- スタッフが多いのでカフェスタッフで対応できている
- まだ数回の開催なのでいまの所問題はありません。
- 皆様のお役に立てればと思い、憩いの場に出来たらと思います
- 3年ぶりの活動として、無理なく持続可能なかたちで進めて下さい。
- 今は始めたばかりですので、毎回参加者が集って来ていただけるのが一番の関心事です

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

32

問4 その他ご自由にご意見をご記載ください

- メディカルカフェの参加者に医療関係の方が多いのは理解できるし大変心強いです。一方で参加するメンバーが固定化すると、新しく参加された方が、次から遠慮されて来られないケースを何度か目にしました。コーディネーターの役割の深さや重みを感じます。
- 本来は、対面式であるべきだと思いますがWeb開催で特に注意することを教えてください。また、コーディネーター間の情報共有ができるといいかなと考えます。
- 今後難しい事例を相談できる窓口があるといい
- 特にナシ
- まだ運営経験が少なくこれから難しい問題に直面すると思うので、その時に気軽に相談できる仕組みがあるとありがたいです。
- カフェは問題を解決するところではなく、解消、つまり傾聴したり、話すことでリラックスできる場所。市民の支え合いの場。
- がんの誤解を解きたい。
- カフェには可能な限り参加したいと思います。

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

33

問4 その他ご自由にご意見をご記載ください

- アンケート締め切りを過ぎてしまってお知らせありません。ご準備等感謝いたします。教会でのがん哲学カフェを開設して6年となります。土日の日程があげられず、コーディネーター養成講座はZoom開催になってから、昨年初めて参加させていただきました。盛りだくさんの講演は刺激を受けました。ありがとうございました。カフェ開設2年目に、同じような規模の教会カフェの代表に声を掛けて、樋野興夫先生に顧問になっていただき、連絡会「21世紀のエステル会」を立ち上げ5年になります。エステル会メンバーや関係者間に相談しながらカフェを続けています。医療関係者がいないことよりも、運営者の心がまえが大事だと感じます。他のカフェのメンバーがオンラインで参加された時に、その所属カフェ代表の方との連携をと連絡をとったのですが、望むほどには対応していただかず、同じカフェでも意識が違うことに、かなり負担を感じました。エステル会で話し合うことでとても助けられました。この2年でZOOMを使ったカフェが多くなりましたが、カフェでのマナーを丁寧に説明して理解していただけてから参加していただく必要を感じました。対面カフェだけの時にはとくに触れていなかったことルールとして、カメラをONにしていたこと、発言の仕方、参加者同士のカフェ外での交流につ

いてなど、多岐にわかって気配りが必要となっていると思います。がん哲学外来メディカルカフェの理念については、情報も多く、広く知られていると思いますが、カフェの具体的なマナールールについて、初めて参加する人にもがん哲学外来のHPに掲載があると、心構えができて良いと思います。しかし現状では難しそうです。最近はそのようなマナーの説明も広まっていますが、カフェを運営する側にまんべんなく共通理解が必要かと思うので、市民学会でセミナーなど検討していただければ幸いです。遅くなってしまったにも関わらずとくど書いてしまつてすみません。

- 妻とがん茶道カフェをやってみたい
- WEBのやり方と熟知していないので、便利とは思うが

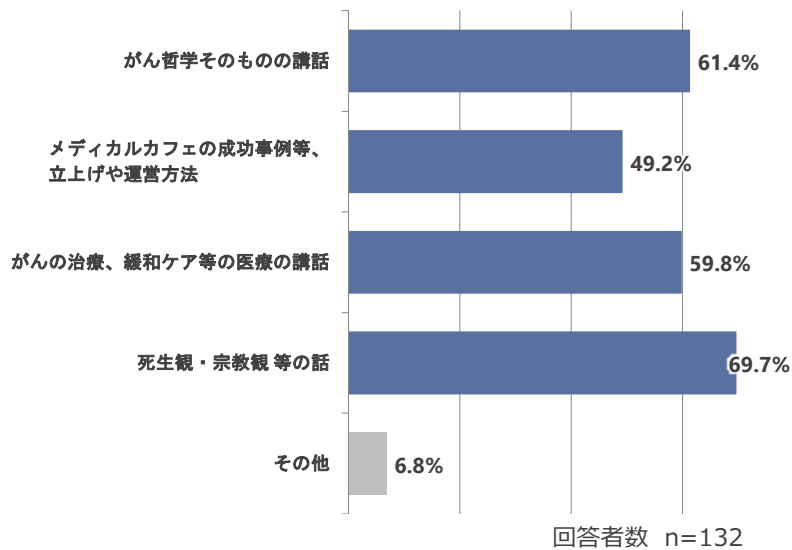
第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

34

【がん哲学外来市民学会大会について】お伺いします

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

35

問1 がん哲学外来市民学会大会で聴きたいと思う内容を選択してください
※複数回答可

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

36

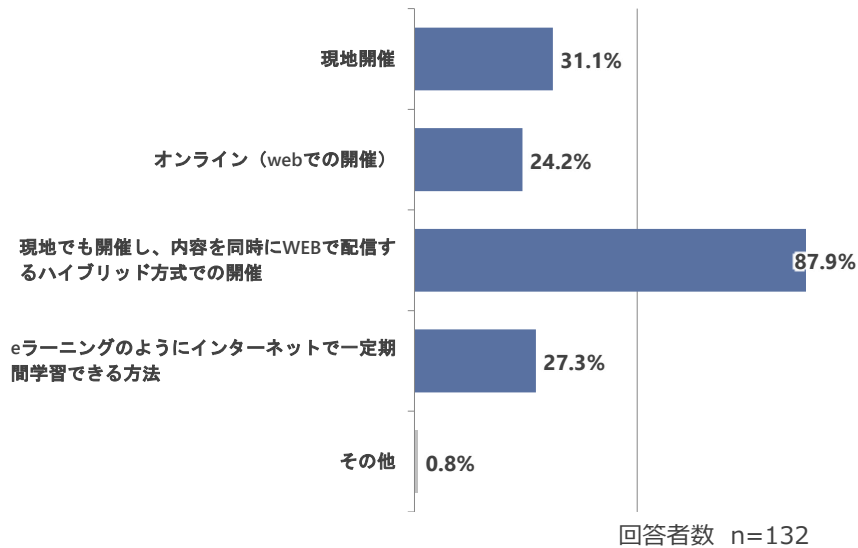
問1 がん哲学外来市民学会大会で聴きたいと思う内容を選択してください ※複数回答可 —その他

- 医療にとらわれず、各種方面の方々の話も聴いてみたい。人生の豊かさを教えて頂けるような。
- 各カフェで、どんな企画やテーマをもちやられているか
- 患者への寄りそい方 家族に向けた内容
- 日常での気付きや変化等
- 各地のメディカルカフェの紹介
- 地域福祉としての活動につなげていくための行政との連携について
- 市民学会大会の会計収支報告（前年度分でも良い） 市民学会の会員数が増えても年会費は変わらず、利益の収支報告が知りたい
- ポジティブに生活するために
- いろいろなお話を聞くことにより考えを深めていきたいです。前回の食品標示のお話も私自身迷ったこともあり よかったです。

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

37

問2 市民大会の開催方法について、どの様な方法があればよいと思いますか？ ※複数回答可



第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

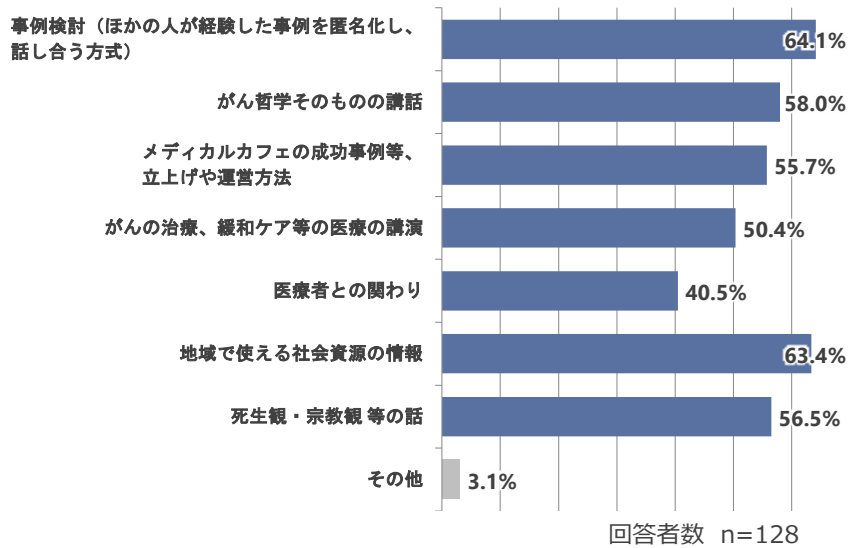
38

問2 市民大会の開催方法について、どのような方法があればよいと思いますか？
※複数回答可 ーその他

- 日曜日でなく祝日や土曜日に開催してほしい

【がん哲学外来コーディネーター養成講座】についてお伺いします

問1 どのような内容が良いと思いますか？ ※複数回答可



第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

41

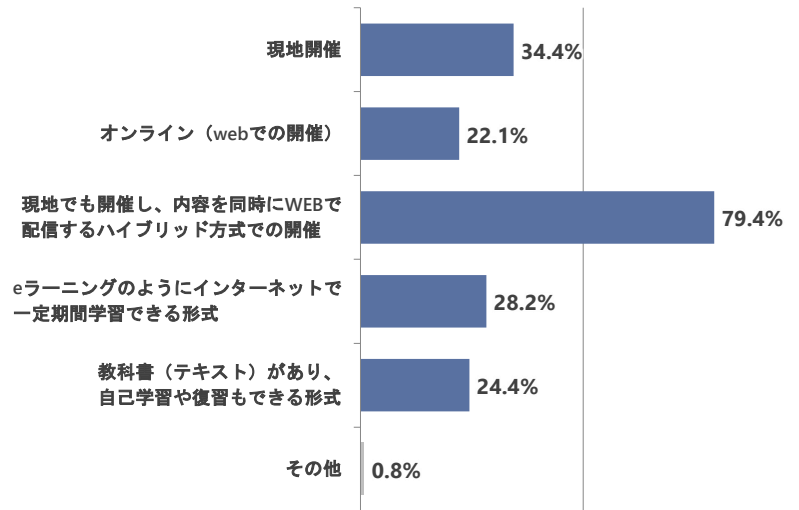
問1 どのような内容が良いと思いますか？ ※複数回答可 —その他

- 傾聴 患者の話しの聞き方 他のカフェの方との交流やグループワーク
- 患者や家族へのよりそい方。カフェの中のファシリテーション法。
- 養成講座で人格を直す事は出来ないので、具体的な接し方、してはいけない対応などの具体列
- 本講座のことをよく知らない！

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

42

問2 開催方法について、どのような方法があればよいと思いますか？ ※複数回答可

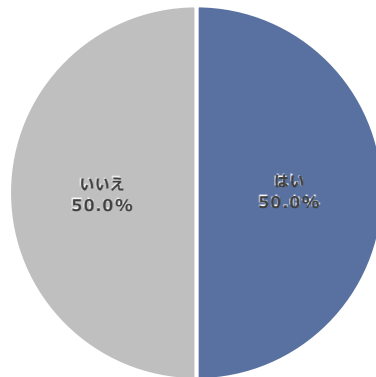


回答者数 n=131

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

43

問3 あなたは『がん哲学外来コーディネーター』ですか？

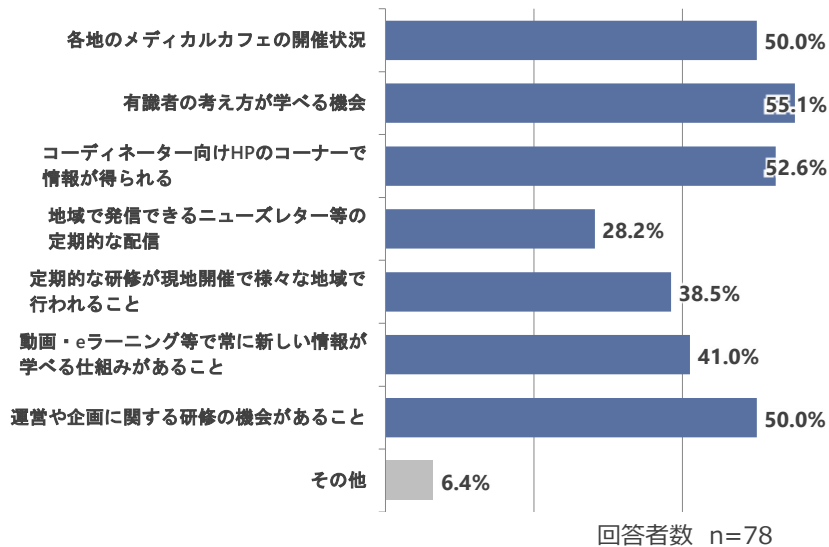


回答数 n=134

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

44

問3-1 (『がん哲学外来コーディネーター』の方のみ回答)【がん哲学外来コーディネーターアドバンス講座】について、実際にコーディネーターになった後、学びたいことについてあてはまるものを選択してください
※複数回答可



第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

45

問3-1 (『がん哲学外来コーディネーター』の方のみ回答)【がん哲学外来コーディネーターアドバンス講座】について、実際にコーディネーターになった後、学びたいことについてあてはまるものを選択してください
※複数回答可 —その他

- カフェを開催している人の悩みを相談したり、分かち合える機会があったらと思います。
- 人の存在と心の深いところで交わりを築くこと
- いつからでも受けることが可能であることを伝え、続けて欲しい
- 息抜き、交流、再開のよろこび、励まし合い、情報交換
- 経済的にも体調的にもアドバンスコースの地方開催には参加できない

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

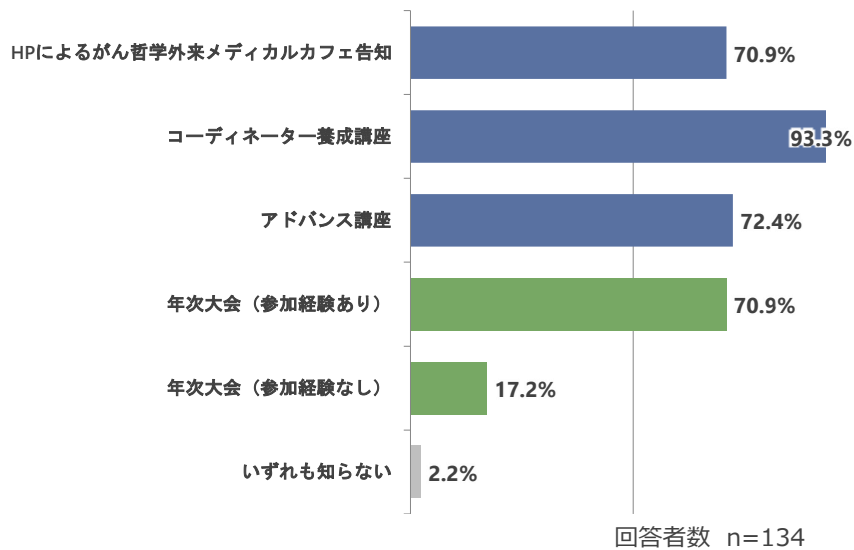
46

【その他がん哲学外来市民学会の活動】についてお伺いします

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

47

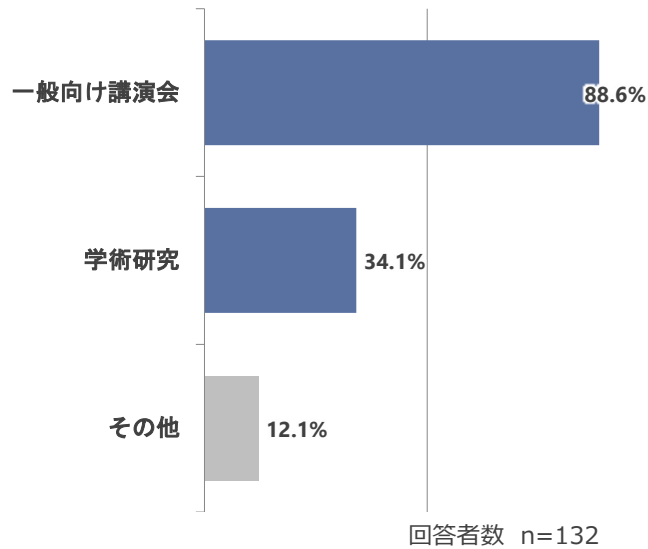
問1 がん哲学外来市民学会では様々な活動をしています。
下記で知っていたというものを選択してください ※複数選択可



第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

48

問2 あなたが学会に期待する催しとして、当てはまるものを選択してください
※複数選択可



第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

49

問2 あなたが学会に期待する催しとして、当てはまるものを選択してください
※複数選択可 —その他

- 学会員同士の交流
- 一般の人たちが市民学会に興味を持ってくれるような内容
- 体験者の談話など
- がん哲学外来を多くの市民に知ってもらう機会
- 一般の方も医療も共有できる催し
- 心を入れて人と関わる事の大切さ
- 研修会
- さまざまな死生観・宗教観からのパネルディスカッション
- 各地のカフェの方々との出会い
- コーディネーターとしての質の向上・研修に役立つ催し
- 先進医療について知りたい
- 2.研究は絶対ダメ！！
- がんに関する活動をしている他団体との交流や情報交換
- 学会はボランティアで力を合わせての運営なのであまり欲張らずシンプルに。
- コーディネーター無用論の否定対策
- 会員数が増え、ニュースレターの紙物での発行も無くなり、利益ででているのに公的収支報告をしてほしい。ネットの配信などに疎い人は置いていかれる感ありあります。

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

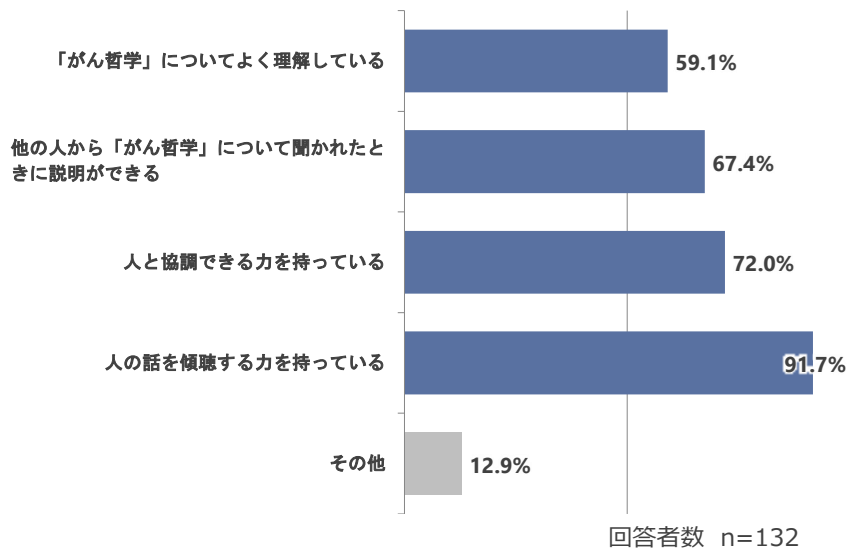
50

がん哲学外来に関わるご意見をお聞かせください

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

51

問1 【がん哲学外来コーディネーター】になるため、このような要件があるとよいと思うものを選択してください ※複数選択可



第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

52

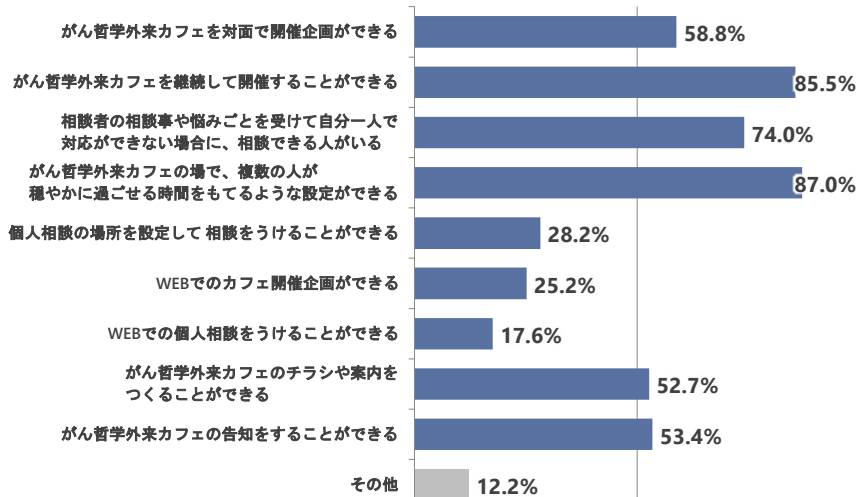
問1 【がん哲学外来コーディネーター】になるため、このような要件があるとよいと思うものを選択してください ※複数選択可 ーその他

- 聴かせていただく姿勢
- 人からのフィードバックを受け止められる人
- リポート力
- 本人の死生観の確立
- 承認、効果的質問の力
- なるべく他人と交流経験が多い人が好ましいか？
- 自らの死生観をもっていること。死とどう向き合うのか、自分なりの考えをもつこと。
- 4のみでなく対話力が求められる気がする
- 想像力、実行力、ちょっとだけでもあれば良い経済力
- がんの最低限の知識
- コーディネーターに意欲をもっている
- 個人情報の保護についての知識
- がんについての知識をある程度もっている
- 誰に対しても対等で、協力的 支え合う力。上下関係はそこがない。
- あるていどの人選が必要
- 地域に対して発信、連携できる
- 状況判断が出来、自身をコントロールする能力

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

53

問2 【がん哲学外来カフェを開催してゆくために必要な力】として、あるとよいと思うものを選択してください ※複数選択可



回答者数 n=131

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

54

問2 【がん哲学外来カフェを開催してゆくに必要なたち】として、 あるとよいと思うものを選択してください ※複数選択可 ーその他

- リーダーシップとフォローシップ
- コーディネーターの力がある
- 個性的がある
- 開催者のカフェの形の想いは様々であり、必要な力はそれぞれ違うように思う。
- 心を込めておもてなしする力
- 情熱とやり抜く意志
- 医療関係者の支援
- 複数のスタッフを束ねていくチームリーダーの資質
- 医師の協力を得てサポートしてもらうこと
- カフェに関わるスキルUP
- カフェ会場の確保ができる
- カフェに関わるスタッフの為のミーティングを実施する。
- カフェの開催の意欲を持っている
- 地域の仲間の存在。仲間が必要
- 各カフェの個人面談は主催者の人となりに差があり過ぎて難しい
- 周囲のカフェとの連携がとれる

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

55

問3 こんな「がん哲学外来メディカルカフェ」があったらいいな、 というイメージがあれば記載ください

- 分かち合える場・気づきの場
- 参加した方々が、重荷を降ろして帰ることができる。受け入れられていると感じる温かさ、穏やかさ。
- AYA世代が企画、運営、参加するカフェ
- がんに関わらず、多種多様な悩みを相談できる場所であることが求められていると思います。
- 話を聞いてくれる。悩み、くらしが話しやすい雰囲気
- 不安を抱えている患者・家族がホッとできる場が常設できる
- まだ分かりません。
- ・カフェに参加したことで心が穏やかになり、生きる勇気が湧く・継続的に参加したい気持ちになる
- 終末期医療に関心のある医師、看護師も参加し、しかし、一般の人と同じ目線であって、参加者が自由に語れるカフェ。
- まだまだ癌告知をされて一人で悩んでいる方が多いと思われる。
- 小児のため、思春期のためなど年代別などのカフェ
- 初めて来た方も安心して過ごせる空気感さえあれば良いと思います。
- 安心して気軽に集える
- カフェに来て下さった人が心が軽くなり 笑顔で帰っていただけるような場所
- 各カフェの現状報告、交流等の場
- 新しい発信力があると良いかと思う
- 個性的
- まだ行った事がなく具体的なイメージがありません。
- 気軽によれる場所。地域の憩いの場所。
- マギーズ東京のような常駐のスタッフがいて、くつろげる場所 古民家カフェのような場所でおいしいお茶をいただきながら対話できる時間
- 特にありません
- なし
- 参加しやすい雰囲気
- カフェに行きやすい環境が整っていること

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

56

問3 こんな「がん哲学外来メディカルカフェ」があったらいいな、というイメージがあれば記載ください

- あたかな雰囲気と笑顔
- 榊原先生が司会をされていた頃のOCCカフェ
- がん哲学の理念を大事にした上で、決まった形の運営ではなく、各メディカルカフェの個性や強みを運営者が考え、良い意味でのオリジナリティがある。
- 安心できる居場所
- 地域にがん哲学外来メディカルカフェがなく、他のメディカルカフェへの参加も交通手段等の問題で難しい方々へも出張メディカルカフェで対応できるようなシステム
- 現在なし
- 医療系の学生や、中高生を交えたカフェ
- 病院のまち会い室のかたすみ、フリースペースのようにさりげなくある
- 絵本カフェ、園芸カフェ
- 自然の環境の中でのカフェ 都会のオフィス街でのカフェ
- どんな方でも気軽に参加でき心を聞いて話せる居場所
- 参加者が又来てくれて黙ってすわっていてもよいカフェ、云う、聞くことが出来る場所
- 音楽カフェ、絵画カフェ、絵本カフェ、アロマカフェ、園芸カフェ、将棋・囲碁カフェ、エトセトラ
- 私は茶室や畑を解放できますので、ゆったりとお茶を飲んだり、お庭を散策したり、時には野菜作りに汗を流し、みんなで収穫祭を楽しんだり等々病気であることを忘れられる事ができる場所が、あったらよいと思います😊
- 住まいの近くで参加できるように中学校の周囲や校舎でカフェがあると良いと思います。
- カフェということで、誰もがいつでも来れる場
- 患者やその家族が悩みを気軽に話しにこられる場所 誰でもウェルカム！という雰囲気
- 働く人の為と思い、休日のカフェを開催を目指して開設しましたが、始めればかりなので、新しいことは出来ません。
- 常設の喫茶店のようなカフェ
- 気負わない空間、でしょうか。
- いつでもふらっと立ち寄れるカフェ

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

57

問3 こんな「がん哲学外来メディカルカフェ」があったらいいな、というイメージがあれば記載ください

- 各年代層で参加出来るカフェ
- 困った時、嬉しい時、何かあったら話したい場所
- 各月、各季節、などでイメージチェンジする
- 何でも話せる信頼関係を築ける様な雰囲気のカフェ。
- 治療の情報交換
- 型にはまらず、みんな違って、基本がぶれなければ
- 穏やか、ゆったり なイメージ
- あまりキチンとしていない緩やかな感じのカフェ
- 家や病室にも出前できるカフェ
- 参加する人たちは医療者であろうが、患者さんであろうが人として対等。技術や知識でなく「がん哲学」の精神で関われる場所。
- 春夏秋冬に近隣のカフェが協力しあって、楽しいイベントを開催する。
- 安心出来る場
- 明るく換気の良い場所で、人とも距離を少し保て（密集でなく）話しやすく、また来たいと思える場
- がん患者として連帯感を持てる機会があるカフェ
- 参加する人にとっては、初めての人でも参加しやすい。話し足りない、と思う人がいないカフェ。主催側としては、代表だけでなく、スタッフが補充しながら運営していくカフェ。
- 「喫茶去」がん患者やその家族が、誰でも気軽に集まり、元気が貰える。そんな茶道がん哲学カフェを造ってみたい。
- 現在所属しているカフェがとてもよい空間であり、継続していきたい（スタッフとして）

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

58

問4 最近では、学校でもがん教育が始まっています。今後「がん哲学外来メディカルカフェ」が更に普及するためのアイデアがあればお聞かせください

- 各自治体の教育委員会に働きかける。
- TVCM放映、公共交通機関での広報活動
- 模擬カフェを行ってみる。
- 青少年対象のカフェ
- 講師として参加する
- がんに関する体験を語れる力
- がんの発生の仕組み、加齢や生活習慣などの特定原因、命の期限等の哲学要素を含む講演
- がん哲学外来でも学校で体験をお話できる人材の育成を目指してはいかがでしょうか
- メディカルカフェ体験。
- 個人の体験を傾聴する授業を増やす。
- 学校等で出前授業等若いスタッフを
- がん哲学メディカルカフェの存在を医療関係者や行政にもっと認知される必要があると思っています。特にがん教育に関わる中で声がかかっているのは県で主催するがんピアサポート認定者です。そして、活動としてはがんサロンが紹介されています。 今後は、がん哲学外来認定コーディネーターの資格が同じように用いられるように市民学会で行政へ働きかけて頂きたいです。それから、がん拠点病院にメディカルカフェの設置が義務づけられるような環境を作ってほしいです。それが普及の早道になるのではと思っています。宜しくお願ひいたします。
- 近隣の学校、教育委員会への働きかけ。
- がん教育では教育現場との調整力が必要だと思う
- がん教育に協力できる人材の育成
- 夏休み子供教室
- がん哲学外来カフェの情報提供できるパンフレットを作成し、一般病院や薬局に配布する。 社会福祉協議会への後援申請や協力 樋野興夫先生の著書がコンビニで売っている(カフェにふさわしい本を1冊にしよう)
- 特にありません
- なし
- 学校内で生徒参加型のカフェを開催（支部を創設し各カフェで協力体制を整える）

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

59

問4 最近では、学校でもがん教育が始まっています。今後「がん哲学外来メディカルカフェ」が更に普及するためのアイデアがあればお聞かせください

- 一般の方にも、もっとがん哲学外来のことを知ってほしい
- 参加された方が「自分は大切にされている」と実感できる居場所作り
- ①各会員の人から良さ言葉を集めて、歌を作る。各開催地やYouTube、TikTok、などで流す。②NHK Eテレで番組を作ってもらおう。③各会員から募集して、その人たちが、活動に関するブログやInstagramで発信活動。
- 行政と組んで、開催人数が増えれば普及できるのではと思います。
- 医療系学生、臨床心理学系学生、臨床宗教師、チャプレン候補生のインターン研修の場
- 健康とがんー人生って!?
- 授業の中で地域によってのカフェを地域に志願としてお知らせする
- 参加者が介護施設や老人ホーム等へ出向き、カフェを開催する
- 劇場（演劇との係り）
- 学校でのがん教育は必須です。教会での「がん哲学外来メディカルカフェ」の普及
- 対話の力
- ぜひ、学校でもがん哲学外来やメディカルカフェの存在や目的を生徒さんに知っていただきたいです。いつも樋野先生がお話しになっている通りです。教育委員会や市の職員にも働きかけています。まず父兄会などで大人や先生方に知ってもらってから始めてはどうかと考えています。
- メディカルカフェ同士の連携、連帯
- 共に学び進んでゆける人間関係一人でも多くの共に歩いていってくれる場
- 学校への出前プログラム
- がん教育を始めて9年目（埼玉県内約60校）毎年スタッフとともに小中高回っています。教育委員会との連携が必須です。
- 茶道教育を推進するために、母校の祖父母学級で茶道講座をもうけたり、社会科授業の一環として茶室体験を試みたことがあります。同じように、癌教育も出前講座という形式で、患者さんに体験談の機会をもうけることが普及への一歩になるのかなと思います

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

60

問4 最近では、学校でもがん教育が始まっています。今後「がん哲学外来メディカルカフェ」が更に普及するためのアイデアがあればお聞かせください

- ビンクリボンの活動でも学校に授業としてあるが、中々実施の数が増えない。
- 上記のように中学校の生徒さんと一緒に参加できるカフェがあると 親ががんで闘病されている子ども同士の繋がりも見守ることができたらと思います。
- 講師を派遣できる
- 性教育とネガティブにならないよう。でも、正しい情報を。
- わかりやすい組織力の涵養 社会的信用のために必要 社団と車の両輪で社会資源市民活動として信用を保てきたい。
- チラシを置く
- 学校へのお知らせ
- 今や社会状況は「がん」のみならず、他の病気や心身の障害で深く悩んでいる人がとても多いと思います。従って、これまでの経験を生かし、「がん」に特化しない「哲学外来」という方向性が、社会的に要請されていると感じます。
- 低学年からの"がん"の授業
- コーディネーターとは別にガン哲学相談員みたいな人がいるといいと思います
- 認知症サポーター養成講座の仕組みが参考になると思いますが、
- 高校2年生対象に性感染症研修会を実施していますが、授業の一貫として50分を養護教諭を通して確保してもらっていますが、がんは、まだ身近に感じる年代ではないためハードルが高く、まずは養護教諭を説得できるような研修内容などをがん哲学外来で作成できれば、前に進むことができると考えます。
- 現代は子育てで家庭でも、若くしてがんになられる方も多いと思う。子供達が死にいて、生について学ぶ場も必要だと思う。
- がん教育への講師育成、派遣
- がん教育の場での広報
- 道德の時間等で取り入れて頂く。
- ?
- 地域 学校などから依頼があるほど、周りにもっと知って欲しい

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

61

問4 最近では、学校でもがん教育が始まっています。今後「がん哲学外来メディカルカフェ」が更に普及するためのアイデアがあればお聞かせください

- 思い浮かびません
- 地域社会に受け入れられる存在となるように自治体や社協など連携する
- 行政に力を貸してもらえるような仕組みがあると普及しやすくなると思います
- もっと外部への発信や社会貢献できるチャンスを作る
- 地域でがんのことで活動する中で、体験者が小学校でお話をする機会がありました。
- がん教育の場にカフェの動画を披露する。
- がん教育講師の養成
- 教える先生方にも現状を知るためにメディカルカフェに参加して頂けるように働きかける
- カフェの近くのがん拠点病院にチラシを置いてもらう。→患者だけでなく医療者へのアプローチ 市町村などの役所にチラシを置いてもらう。→一般の人の目にも止まるよう まずは告知、「がん哲学外来メディカルカフェ」という物があるという事を一般に知ってもらう
- がん経験者が自分の経験を話せる場/機会作り
- 学校でのお試しメディカルカフェ。家族などにがん患者がいる人は子どもでもいると思うので、そのような話を聞き、共有できる経験、がんは人ごとではないと知り、が大事だと思います。
- 少年は漫画好き、少年はアニメ好き、がん患者やその家族が、がんどう向き合って活きているのか？漫画やアニメで伝えることはできないだろうか？
- 親ががんに罹患した時に、子どもへどう伝えていかなどを学びたい

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

62

問5 特に若い年齢の参加者を増やすためにできるためのアイデアがあれば記載ください

- SNSの活用・若手社会起業家との交流・医学生、看護学生、薬学生の取り組み
- 若い人たちが集まる場所に、チラシを置かせてもらったり、ホームページを作れるなら、若い人が興味を持つような事を記載する。若い子に、カフェのスタッフになってもらう。
- AYA世代は世代で交流のチャレンジをする
- 病院などでのチラシ、ポスター、SNS で、広くPR。
- プログラムの中にゲームを加える
- カフェへの参加の呼びかけ
- ①AYA世代の活動を市民学会として支えること ②医療福祉系大学への出前講義
- 医療や看護、ソーシャルワーク、臨床心理学を学ぶ学生など、将来癌患者に関わりがありそうな人に広めたい。
- 若い世代のがん患者さんの会を作る。
- 若い方が活動できる内容を検討ください
- ネット利用？
- 若いスタッフを育成
- 年代別の開催、zoom
- 若い方は、働いている方が多いので 対面カフェに足を運ぶのは難しい現状があると思います。 ネットだけで繋がる場所 メディカルカフェのネットカフェ専門のカフェがあってもよいのではと思います。
- コロナ前は、東京医科歯科大学院の授業参加、学生さんの受け入れをしていました。現在は2022年5月より、2023年1月迄、上智大学グリーンケア看護師の実習受け入れをしています。親をがんで亡くした20代の方(大学院生)が、年に2回代表としてカフェを開催。様々な方に場の提供、受け入れをしていくようにしています。
- 私自身も考えているところですが、隙間時間にアクセスできる環境が必要
- やはりSNSを利用したカフェの紹介などが有効かと思えます
- 若いスタッフを育てる
- 子供と一緒に参加できるもの
- オンラインカフェのHPのように、親しみやすいHP作りやネットワーク作り 若いがん患者団体との連携 看護雑誌(訪問看護、がん看護)などに定期的に記事を投稿する

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

63

問5 特に若い年齢の参加者を増やすためにできるためのアイデアがあれば記載ください

- 特にありません
- お声掛け
- まずは今以上の広報活動が必要ではないかと思えます。
- 地域イベントへの参加
- AYA世代のイベントとのコラボなど
- 参加体験PRとか、グッズ販売など
- 若いサバイバースタッフが活躍できる環境作り
- 当たり前ですが、若い世代の声を聴くことだと思います
- ブログやInstagram、TikTokなどのSNSの活用。
- YouTubeや、TikTokなどのメディア戦略
- スタッフとしての参加者を増やしたいのですか？この質問は。
- がん教育のように、中学、高校、大学で授業などの形でがん哲学外来メディカルカフェについての講義やカフェ体験みたいなものができるといいのかも知れない。
- より良く生きるためにひつようなものは、セルフケア(身体、メンタル両面)の必要性を学校で教えていない→家庭、保健学の授業が必要だと思います
- 若い人は独自の良い取り組みをしているので、交流、繋がるの機会をつくる
- AYA世代のがん経験者に向けた情報発信
- 演劇の中にとり入れる
- 若い参加者・協力者の姿を広報する、名古屋「しやちほこ」金沢大学神戸薬科大など
- コロナウイルス感染症が広がり、若者の間にも、発症から重症化、死に至ることがある事実が少しは知られるようになりました。生、死を考えるチャンスです。 コロナでもがんでも生きる、皆と一緒に生きるという考えは同じです。地域での努力も必要ですが、(私にはできないのですが) SNSなどの利用ができればと思います。
- 若いスタッフのリクルート
- 若い人たちの「死への準備教育」の普及
- AYA世代のがんサバイバー、その家族、パートナーにSNS等で告知する

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

64

問5 特に若い年齢の参加者を増やすためにできるためのアイデアがあれば記載ください

- お子さんのいる場合には託児所を確保参加を促したり、また、ハイキングや料理教室等書面を離れた活動が出来ればと思います
- カフェの開催場所を子どもが集まる場所や子ども食堂のような場所で さりげなく子どもが聞きたい事を聞けたり知ることの出来たら子どもが 抱えている思いに大人が気がつくことができるような気もします。
- カップルでの参加のしやすさや知名度のある経験者との交流
- 必要な人がカフェに出見え、安心安全により「時」を持てればよいと思う。特に年齢は関係ないのでは。いつも流動的でよいとおもう。
- 小児病院への告知 患者（子ども）や父母が患者の子どもにわかりやすい告知ポスターのデザイン
- 上記"問4"の回答と同一です。（今や社会状況は「がん」のみならず、他の病気や心身の障害で深く悩んでいる人がとても多いと思います。従って、これまでの経験を生かし、「がん」に特化しない「哲学外来」という方向性が、社会的に要請されていると感じます。）
- 親を亡くした子供達の会
- YouTubeですかね
- YouTube（1話3分くらい）動画などで知る人を増やす。不定期でも良いので、養老孟司さんのチャンネルなどが参考になるかもです。
- 若い（同年代）のカフェ開催者が居ること
- 新型コロナの影響で現在HPVワクチンが再度注目されていますが、女性の子宮頸がんや乳がんは比較的若い世代に興味を持ってもらえると考えます。がん種を絞っての活動が有効的ではないでしょうか。
- 安心して話ができる環境、フニキ
- 若い方々には、SNSで繋がり、その後対面で話す場が多数あると良いのか？高校、大学の中にあってもよいのか？
- 若者むけのイベントを
- 学校等 子供達が日常集まる場所での開催。
- ？
- 必要になれば若くても参加なさるのでは がん哲学外来「ぬくみカフェ」☺☺☺☺は若い方も参加なさったり、年齢の幅は大きいです

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

65

問5 特に若い年齢の参加者を増やすためにできるためのアイデアがあれば記載ください

- 難しいですね
- 若い年齢の患者さんのためのカフェを開催して、それを入り口として各地のカフェの存在を知ってもらう
- 大学病院やがんセンター、癌研などにがん哲学外来と各地のカフェの案内を置くなど
- 元気で健康である時はなかなか参加することはむずかしいと思います。私自身若年性のガンでしたが38才で出会った考えです。40代からの方々が参加して下されば、さらに、継続していけるのではないかと、思います。
- 市民学会として、youtubeに発信をする。（資金や人材の検討が必要）
- 実際のカフェ参加者の年齢が高いので難しい 若い人がカフェを運営し、病院にチラシを置いてもらう 若い人がオンライン形式でのカフェを運営する
- その年代の方が中心になって運営するカフェが増えること。
- 青年も少年と同様に、漫画やアニメ好き、それを宣伝にできないだろうか？
- 教育現場でカフェを実施してみる
- HP、口コミを利用

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

66

問6 がん哲学外来・メディカルカフェ等に関わられているあなたが「一番大事にしていなければならないことを1つ」ご記載ください

- 寄り添う姿勢
- 参加された一人一人を大切にすること
- 参加された一人一人を大切にすること
- 参加者の方々を、ありのまま笑顔で迎える。
- あえて何もしない間を作る。傾聴
- がんや死を特別視しないこと
- 何も心配なく誰にでも癌経験者であると開示して理解を求められること
- 自身の心の健康
- 寄り添い。
- 参加者の思いを否定しないでカナル受け入れること
- 開催日にその場所に入れるようにすること。
- コミュニケーション能力(傾聴・相談者の笑顔)
- 相手の思いを受け入れ、否定しないこと。
- 側で聴いていること。結論は相談者が出せるように話を聴いて、整理してあげること。
- 毎回のカフェを一期一会と心得て過ごしています。
- 偉大なるお節介りが出るようになること。
- 参加者の気持ちを理解し尊重する
- 仲間づくり
- ひとり一人がかけがえのない命と時間を生きていることを意識して参加者に向き合うこと
- 参加者お一人お一人の人生のレスpekt
- 孤立して悩まないように お話ができる場があるといい。その時その場はなかなか見つけれられないのでは。
- 参加者の話を聴く
- 寄り添い
- 相手の立場にたって、考える。話を寄り添って聴く
- 多様性
- 人に寄り添い、話しを聞く
- 傾聴
- 人の気持ちを理解できること

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

67

問6 がん哲学外来・メディカルカフェ等に関わられているあなたが「一番大事にしていなければならないことを1つ」ご記載ください

- 人の話を傾聴する事
- 出会いに感謝し自分にできることを 精一杯やることです。
- スタッフの皆様と継続は力なりで続けてゆく事です。
- 苦悩の中でも笑顔になれる会話
- 参加者ファースト
- 自分の価値観で物事や人を判断しない事
- 安心して話ができる場を作ること
- 患者さんやそのご家族の精神的なものを支える一つになれると思います。
- いい覚悟で生きる
- 特にありません
- 相談者の話をしっかり受け止めながら傾聴する。
- 一人一人の個性を尊重すること
- 対話
- 主催者と参加者の気持ちのずれがないように考えたい。
- お互いが寄り添って語りあうこと
- 参加者さんファースト
- 心を込めておもてなしする事。参加された方が「自分は大切にされている」と実感できる居場所作り。
- 静かに寄り添い、目の前の人と共にいる。黙っていても温かい人でいられるよう人としての器を磨く。
- 他者の話を傾聴する
- 感染対策をはじめとした参加者の安全
- それぞれの人の意見や問題の対処法を尊重すること。
- 参加者の皆様のご自身の命を大切に考えてくださる場作り
- その人に寄り添うということ
- 来られた方をあたたかく迎え入れること。
- その人の持つ力を信じる
- 自分を見つめ、自分の人生を充実させること 日々の暮らしを大事にすること
- 問題があっても話す事で解消していけること。決して解決することが大事ではないと思う。
- 参加者の多様性のある価値観を認め、寄り添う態度

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

68

問6 がん哲学外来・メディカルカフェ等に関わられているあなたが「一番大事にしていなければならないことを1つ」ご記載ください

- 呼吸するのと同じように存在する
- 死生観を学び確立していくこと
- 仲間とのネットワーク
- 話を聴く、気持ちを受け入れる
- 意識を自分から他者へと向けて集中する
- コーディネーターの方は「われが、われが…」と勝気な人が多いので、自分はなるべくニュートラルな位置にいるようにし、望まれた内容について真摯に応えるようにしている。
- 少しでも参加する人とふれあえる姿勢（心）
- 一人一人に寄り添う力
- 新鮮な感受性と執拗なる問題追及の精神
- 基本的に人間が好きであること、無条件にどんな方でも受け入れること、アンコンシャスバイアスを持たないこと
- 夢や希望を実現できるよう、一人一人のおもいを大切にしていけること
- スタッフ同士のコミュニケーション
- カフェに参加していても患者さん達の悩みを聞くのが役割だとは思いますが、コロナ禍もあり受け身だけだと人の関わりが薄くなっていきそうなので、人との関わりを大切にしたい。
- いつも変わらずにあること
- 誠意
- 悩んでいる人、不安を持っている家族への情報提供
- 人との心のふれ合い、人間としての仲間という意識
- 理念をしっかりと共有する（はじめた頃の）
- メディカルヒューマニズム
- 人としての尊厳を守ること
- 初対面は相手にとって特別な時、出会ったことの大切さ、気配りを大事にしています
- 人との対話
- 相手の話しをよく聞き共感すること
- 人々の感受性についても多様化を実感しているため、自分の考えは棚に上げて、相手の考えを理解することを最優先に傾聴すること。

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

69

問6 がん哲学外来・メディカルカフェ等に関わられているあなたが「一番大事にしていなければならないことを1つ」ご記載ください

- 常に学ばせていただいております。仕事に様に真剣に参加しております。"生きる"を真剣に向き合う皆さんは私の宝物です。
- 承継（継続） つづけていくこと
- 対話の中で“でも”“しか”を使わないこと。
- 参加される方おひとりおひとりを尊重する
- 双方向の関係性
- 傾聴です
- 謙虚な気持ち
- 参加された方の気持ちが、少し軽くなる様に
- お互いさまたい気持ちをお互いに忘れないようにすること。
- 自分の経験や意見を相手に押しつけないこと、相手が考えていることを理解し相手と共有すること。
- 主催者が無理をせず、ご自身に、心身共に多少のゆとりがあって、人を大切にできる 何をやっても、他人様のためではなく、自身に返るものだと思う 『あなたのために』と言わないで、全ては、自身に返るのだから、できることを精一杯できた
- 面白い
- 必要な人が参加出来る場作り
- 医療関係者と患者さんとの間には大きなGAPがあるため、がん哲学外来を通して隙間を少なくするための方法をメディカルカフェ参加者から学んで次に反映させることです。
- 傾聴
- 空っぽの器として場を提供し、寄り添っていくこと
- 参加者の心の動きに合わせ、決して無理強いをしない。否定しない。
- 相談者に寄り添い
- 患者、家族は不安がいっぱいある
- よりそう
- 安心して参加でき、満足して元気をもらって帰れる場（雰囲気）作り
- 真剣に心から聴く。
- 自分をみとめること

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

70

問6 がん哲学外来・メディカルカフェ等に関わられているあなたが「一番大事にしていなければならないことを1つ」ご記載ください

- 参加者同士の会話を促進すること
- 自分自身がぶれないこと
- 「一緒にいる」こと
- ひとりじゃないと思える社会にすること
- 自分自身が疲れてくじけないようにする
- 傾聴
- コミュニケーション能力
- 地域の人と人とのつながり。地域の中のがん患者さんにとってのオアシス。医療色がないところ。
- 信頼のネットワーク（各カフェの協力体制の確立）
- 継続すること。
- 居心地の良さ
- がんになる人は年々増えている中で色々なよりよい方法があると思います。その人に合う寄り添いをしたいと思っています。
- 来られた方が安心して話せる雰囲気、環境をつくること
- 相手を傷つけない配慮
- 定期的な同じ場所で開催する
- タイミングがあればカフェに参加したい。
- 自分のカフェのみに埋没しない、オープンマインド
- がん患者やその家族が、生きられるよう、少しでも心のケアが出来たらと思います。
- 参加者個人の尊厳を大切にすること。
- お茶を飲みながら、話をゆっくり聴くこと
- 参加された方々が「来て良かった」と思ってもらえること。「また来たい」と思ってもらえること。
- 参加人数に関係なく継続することによって地域での認知度があがってくる事を期待したい。
- 人によって思いや考えがあることを認めること。

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

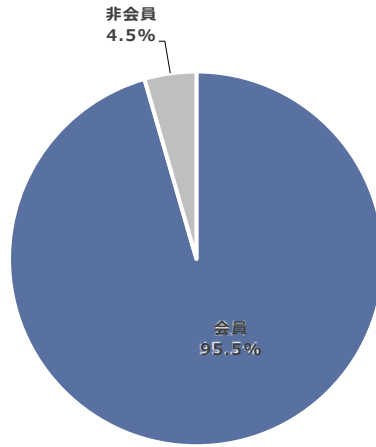
71

回答者情報

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

72

問1 がん哲学外来市民学会の会員ですか？

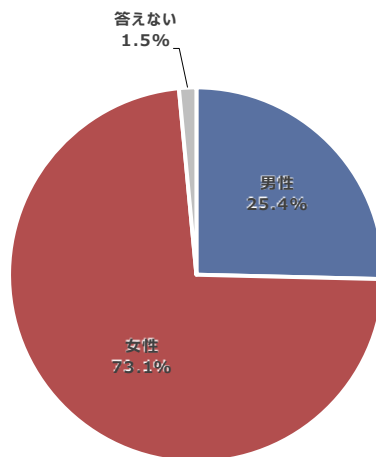


回答数 n=134

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

73

問2 性別

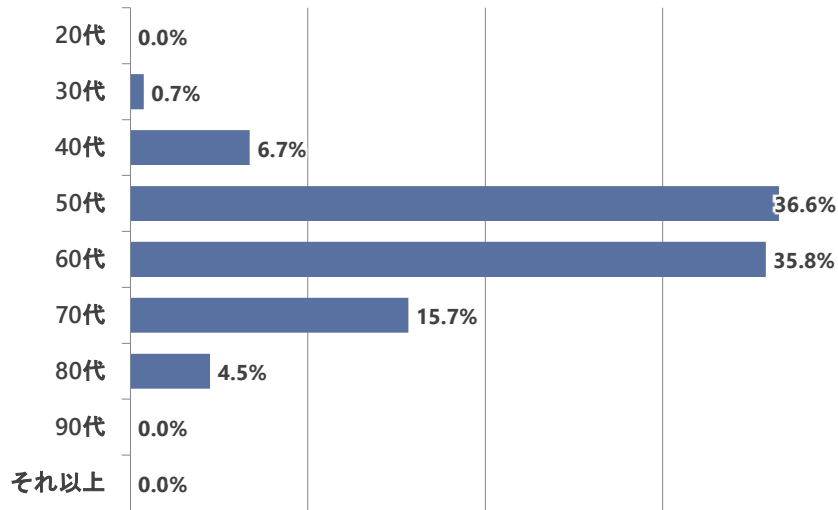


回答数 n=134

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

74

問3 年齢

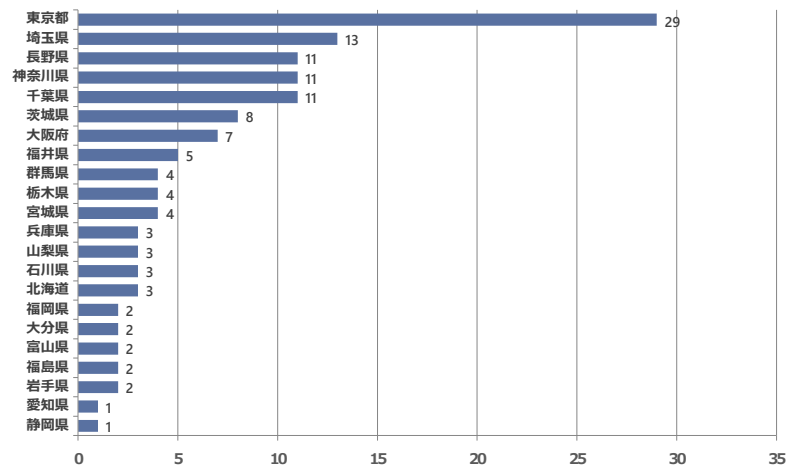


回答者数 n=134

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

75

問4 居住都道府県

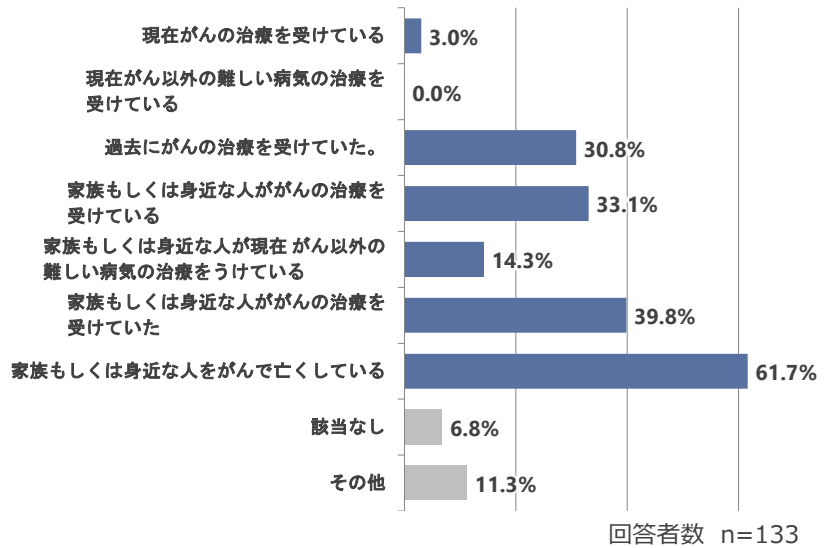


回答者数 n=131

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

76

問5 病気や治療に関して、あなたは下記のいずれかに該当しますか？ ※複数選択可



第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

77

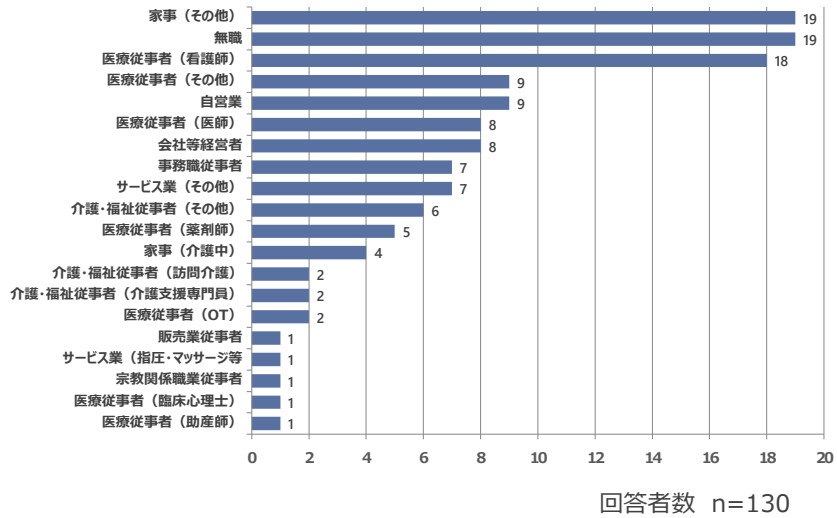
問5 病気や治療に関して、あなたは下記のいずれかに該当しますか？ ※複数選択可
—その他

- 精神障害の為、服薬を受けている。 中
- 家族ががん疑いで治療を受けている。 ● 治療する側
- 抗ホルモン剤内服と経過観察中。 ● がん以外の病気治療中
- ケアマネジャーとしてがん患者様の担当をしている。 ● 被爆2世です
- 医療者 ● 今も定期検査にしています。
- がんの診断をしている ● 友人の脳に細胞腫が見付った
- 現在、新型コロナウイルス感染症後遺症の治療中
- 薬のアレルギーがあり、あらゆる治療に苦労しています
- 現在も検査を続けている
- がん患者本人 寛解状態にあり、経過観察

第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

78

問6 現在の生活状況・仕事の内容について当てはまるものを選択してください
※複数選択可



第11回がん哲学外来市民学会に向けての会員アンケート

79